

OB会報

湘南サッカー一部OB会報

第18号

2000年に期待する

湘南サッカー部OB会長

22回 桑田 孝

昨年日本サッカー界での大きな出来事はU-22の代表が全勝でオリンピック出場を決めたことであろう。前回やつとベスト2になって出場出来たことと比較すると何かもの足りない位である。今回のオリンピック代表チームの好調を支えている一つの要因はチーム内での競争の激しさであると思う。トルシエ監督が誰にでもチャンスを与え、調子のいい選手をどんどん実戦で使っていたのも見事であった。Jリーグの発足で日本のサッカーが進歩し、選手の層が厚くなっているのが良く判る。現在の日本のユース年代の選手は一人で二つのポジションをこなせるだけの能力を持っているし、どのポジションで使われるかによって自分どのような役割が期待されているかを理解しそれを実行出来ている。今回のオリンピック代表チームは技術面でもフィジカル面でもインテリジェンスの面でも能力の高い選手がよく集まったと感心するばかりである。

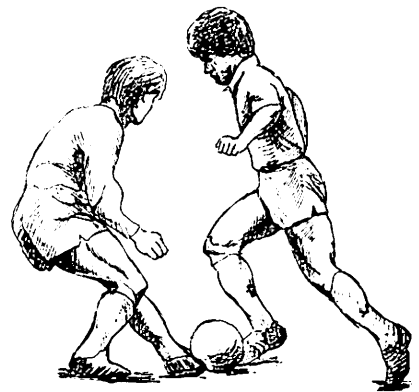
しかしそれでも日本全体での盛り上りに何か欠けているように思えてならない。

それは今迄オリンピックにしろワールドカップにしろ出場しても肝腎な試合で勝てず、予選を通ったことがないからではないかと思う。何か日本全体が今度もまた同じでないかと醒めているのではないかと思えてならぬ。

ワールドカップも同じであろう。開催国だから出場出来るのは当たり前、予選を通過してこそ盛り上るのだと思う。未だ未だ道は遠いのかも知れない。

今回のオリンピック代表チームは本場の意味での苦しい戦いを未だ経験していませんとも言える。レベルの高いチームと戦っても同じように勝ち抜くことを期待したいものである。

ところで、昨年の湘南高の現役チームは県のベスト8に進んだと聞いている。その成果は大いに評価出来るがそれからの大変さも良く判ったことと思う。今年チームはその先輩の活躍を見て大いに期するところがあると思う。技術面でも更に鍛え好成績をおさめることを期待する。健闘を祈っている。



ペガサスシニア

(五十雀) 報告

ペガサスシニア(五十雀)監督

32回 山本 豊

年相応に何歳になってもサッカーを楽しむ、と言う点からはペガサスシニアのメンバーはこれを十二分に実践しております。あくまでも年相応に、これを楽しむ、お互いの親睦を図るのが主旨で、以前のようにまなじりを決して試合にのぞむという力みはもうありませんが、そこは勝負ごとですからつい老骨むち打って無理をしてしまう場面が連続してしまいます。お互い怪我をしないように、相手様にも気を使つてという事でやってはいるものの、毎年打ち身、捻挫、骨折という災難も発生してしまうのはまだまだメ

ンバー一同若いつもりでいるようです。こうした気力が結果に結びついて、今年の戦果は見るべきものがあります。もともと四十雀では平均年齢が他のチームより高いのでは、と見られていたのですがこれに五十歳になったばかりの若手が加入したものですから、赤パンの老翁さとヤングパワーがうまくかみ合って、好成績につながったとみております。

《神奈川県シニアリーグ》

全9チーム。6月5日対平塚2・2の引き分けからスタートして、7月17日対YK5・0、10月2日対綾瀬0・0、10月16日対茅ヶ崎ウエスト3・0、11月6日対小田原2・0と、6戦して4勝2分けと負けなしできています。

《Jレレッジ全日本OB大会》

5月15・16日に福島県のJレレッジで六十歳以上のシニア全国大会が開かれ、我々も例年のごとく参加いたしました。今年は天候に恵まれず、雨の中の試合を余儀なくされましたが、それでも同じ思いの方々とサッカーを楽しめた気持ちの良い大会ではありました。戦績は、対滋賀1・1、対栃木1・1、対福井5・0、対茨城0・2で1勝1敗2分と五分の結果でした。

《古河市シニアサッカー大会》

5月22・23日に開かれこれにも常連チームとして勇躍参加しました。先週から連続で大きな大会となりましたが、16名余が集まりいつものように自衛隊のグラウンドを使わせていただき、気分良くサッ

カーを楽しみました。古河では初日の夜はここ数年同じ店で酒と食事をとっており、今回もまたその店で氣勢をあげ一氣にウン十年前にもどりました。肝心の試合の結果は、対東京0・0、対牛久7・0、対栃木1・2、対筑波1・0で2勝1敗2分と取りあえず納得のいく戦果をあげて引き上げてきました。

《刈谷市シニアサッカー大会》

この大会も出場資格が六十歳以上ですが、全国には元気なサッカー愛好者が多くほぼ全国規模で刈谷に集まってきました。好天に恵まれたうえに芝のグラウンドの手入れも良くされており、運営を担当されている地元の方達も熱心でここでの試合はいつも気分良く、サッカーが地域に根付いていることが良くわかります。開催されたのは10月2・3日で我々の到着は昼過ぎとなるため初日は1試合で、対西日本4・1、翌日の対大阪2・2、対滋賀3・0と2勝1分けという戦績でした。刈谷でも古河にならって昨年から同じ店で気炎をあげており、店の方も時ならぬ元気印の団体様に大喜びといったところでした。

《FUS(付属・浦和・湘南のOB戦)》

毎年11月23日の勤労感謝の日には成城の第一生命グラウンドに懐かしい面々が朝から集まって、終日サッカーに興じることになっています。今年も湘南は30名近くが集結し、いつもながら他校を圧倒して結末の良さをしました。サッカーが出来れば幸せである、といった人たち

の交流の場ですから、スコアは二の次三の次で、失礼ながら「お歳のわりには」というプレーには全員から大きな拍手が送られる、といった嬉しい試合が続きます。試合後の懇親パーティーでは、出身校の枠を越えて俺お前の世界となり、おたがいの健勝を讃え合い、また来年もいい顔を見せろよというエールの交換で締めくくられます。試合の方は各校の50代60代チームの総当たりで、それぞれのチームはハーフごとに分けてすすめられました。結果は昨年同様頭数を誇る湘南がよい成績を残しましたが、この大会ばかりは、我々の後輩に引継いで今後も永く継続したいすばらしい先輩方からの遺産です。

以上今年の戦績を記しましたが、歳の割には我々もやるではないか、といったところではあります。それよりなによりサッカー人生はながい、またそのための仕掛けがしっかり整っている、ということにご注目いただきたい。ペガサスシニアが待っています。



ペガサスシニア

(四十雀)奮戦記

ペガサスシニア(四十雀)監督

38回 長谷川 十九治

湘南ペガサス・シニアはペガサス(ジュニア)を卒業した者が中心のチームであります。従ってメンバー総勢31人のうち殆どが50歳代で、60歳以上の赤パンツも7名おります。又、50歳以上の方は五十雀チームにも所属しています。

試合に臨む基本方針は、勝ちにこだわればレギュラーメンバー固定ですが「サッカーを楽しむ」ことをモットーに、出席メンバーは全員試合に登場します。

全員が和気あいあい、試合後のビールが楽しみな人が多いのも特長です。とはいっても、負けてばかりでは楽しくなれません。本年度の四十雀リーグ(3部)では、ペガサス(ジュニア)の卒業生を若干名加え、従来の楽しむことにプラスして勝つことを目標にリーグ戦を戦いました。その結果、エース藤田(56歳)の活躍もあり、3勝3敗5分(12チーム中6位)の比較的好成績を収めました。(殆どが40歳代の他チームに対し50歳中心の我がチームとしてはかなり満足しています)歳はとつても士気は盛んで、興奮のあまりレッドカード、イエローカードを受ける者が多いのも特長のひとつでしょう。

来年こそは3部で優勝し、若手ペガサス・ジュニアに追いつくことを目標に活躍します。
ペガサス・ジュニアの卒業生のご加入をお待ちしております。

湘南ペガサス

活動報告

湘南ペガサス監督

48回 関 佳史

今年の湘南ペガサスは、38名のメンバーのうち湘南高校サッカー部出身者が17名。加納さん(43回)がシニア入りし、2000年の年明けから、武藤君、新倉君、田中君(53回)が新加入する予定です。

さて、今年から2部におちてしまったリーグ戦ですが、結果からいうと5勝4敗2分けて5位(11月末時点)という成績に終り、目標としていた1部復帰は達成できませんでした。試合としては、1部にいたときに比べて、相手のレベルが下がっていることもあり、毎試合が接戦になりました。

開幕当初は、チーム状態がよく、新加入の八木君らの活躍もあり3勝1敗1分で、折り返し点までいきました。フォーメーションの面でも、4-3-3、4-4-2、3-5-2を相手にあわせて使わける練習試合を重ね、ある程度全体

の理解度も高まって来ました。ところがその後、6月の対浅野OBとの試合でメンバーがたらず9人で試合をやつて負けました。そのあたりからずると勝てない試合が続き、後半は2勝3敗1分と負け越してしまいました。チーム状況では、加納さんが抜けたあとのセンターフォワード/ポスト・プレイヤーがいなかったことが大きく響いており、やむをえず、本来CFではない選手がCFをつとめざるをえないという状況です。ディフェンス面では、選手層が厚く、ある程度のレベルは保っています。

多いときには20人以上、少ないときには9人という状態で、チームとして戦術を徹底するにはほど遠い状態です。また、あいかかわらず、勝つことと、参加していただいた選手を全員試合にでていただくことの矛盾を抱えながらやつていくことはいたしかたがないことと思います。いろいろと、それぞれに思いはあるでしょうが、グラウンドにたち、走ることが快感である限り、多くの皆さんに参加を呼び掛けたいと存じます。

【付録1】監督のひとりごと

桑田会長に試合を組んでいただいて以来、御殿場(あの加茂ジャパンが合宿した芝生のグラウンド)でのマスターズ・トーナメントに恒例で参加しています。毎年、エンジョイ部門とチャレンジ部門があり、本年はスケジュールの都合があり、チャレンジ部門に参加しました。さすがにチ

ャレンジ部門だけあり、強豪チームが参加しており、勝敗はともかく(通算2敗2分)相手にめぐまれた試合をすることができました。

一つは、北区の朝鮮高校OBを主体とする「高麗クラブ」。1999年の古河マスターズで全国制覇をとげたチーム。チームとしては4-4-2システムの最高の機能を発揮し、ポスト・プレー、左右からのオーバー・ラップ、すべてサッカー理論を忠実に実行しているチームです。他チームとの対戦では、なんと、平均1試合5-6点をとっており、我々がまともにも太刀打ちできる相手ではありません。

エースの10番の選手は、もと北朝鮮のオリンピック代表。スピードと運動量もさることながら、キックの正確さには脱帽。立ち足が向いていない方向にも正確に蹴る技術は、私は35年のサッカー人生で初めて見る素晴らしい。この選手を、浅倉先輩がマークし、絶対とめるといつてハイ・テンションで対応。前半20分までは0-0で抑え、いけるかなと思つたところで、10番をおとりに使われて失点。数分後に、10番を倒してPKをとられた。GKがPKを止めながら、つめられて2失点目。後半はお互いに、全員出場して2-0。負けたとはいえず、全体としては集中力のある試合ができ、充実した気持ちで終わることができました。

翌日は帝京高校のOBチームと試合をおこない、GK野口さんが、連日PKを

止めて0-0の引き分け。帝京らしい個人技の優れたチームですが、チーム活動を常時していないことがあり、チームとしての完成度は高くありません。当方、ピンチの連続でありながら、集中力を維持することができ、結果としてイーブンで終わり、これまた苦しい中でも充実した試合となりました。

2部においては、経験できないレベルの高い相手との試合も、自分たちのチーム能力を確認したり、戦い方をチームとして意思統一する上で、大切なことと思います。

トトカルチヨ湘南

活動報告

64回 瀬戸 極

我々トトカルチヨ湘南の1999年シーズンも、あと1試合、入替戦を残すのみとなった。今期の成績は2勝6敗3分で12チーム中10位。昨年の今ごろは神奈川県リーグ1部昇格を目指しての入替戦に向けて準備をしていた頃だったと思うが、今年は1部残留をかけての入替戦である。

と書き始めたところに、一通のメールが届いた。開いてみると、今期のリーグ1位チーム、東邦チタニウムが関東リー

グへの昇格を決めたため、トトカルチョ湘南は入替戦なしで1部残留との知らせだった。(ラッキー!)うちのチームはなにかにつけギリギリなのが特徴なのだ。

ともかく、他力ながら1部に残留することができたわけだが、トトカルチョにとつての今期は、1部リーグの厳しさを改めて思い知らされたシーズンだった。序盤の実力的に下位だと予想されるチームとの試合に勝ちきれず、上位チームには大量失点で敗れる。総失点はリーグ最下位タイ、2桁失点が11試合中2試合もある。体力も集中力も足りていなかった。

また、試合前の準備、戦術・意志の統一という面でも不足していた試合が多かった。湘南のサッカーとは、かぎられた人材の中でいかに考えて勝つか、という事だと思いが、今までと違う相手に対して、今期はその考える部分が不足していたと思う。そしてベストメンバーが組めないときにも、誰がでも1試合通してその考えた事を徹底できなければシーズンを通じて良い成績は残せない。普段控えのメンバーがもつと底上げをして、先発と控えの力の差をなくしていかなければならない。これは自分自身に対して強く感じている事でもある。

今期の反省をふまえて、来期はチーム、個人ともにもっとトレーニングしていかねばならないだろう。今や、1部リーグに所属するチームの中で練習をしていないのはトトカルチョだけらしい。私自身も練習したいわけではないが、試合

に負けては面白くもなんともない。苦勞してようやく1部に上がったのだから、その中で試合をして、勝つて楽しみたい。64回生が中心となっているチームの中で、メンバーの多くが30歳を迎えようとしている。今後でもできる限り長く今の位置を保つために、努力する事を思い出す時期に来ているのかもしれない。

なりは今いちなれど 心はニシキ

56回 水戸 将史

横浜市東区ついでいうところをご存知だろうか? 商売柄つい地元を披露したくなるのだが、人口は十四万五千人強、最近、市営地下鉄や相鉄線が湘南台まで延伸したので、藤沢にぐっと近づいた感もあるが、昭和六十一年十一月に戸塚区より分離された、横浜の西のはずれにある区である。

私がここに住み始めて早六年。もともと私は藤沢在住期間が長く、県議選挙に出るハメになって、ヨイコラサッサという感じで、こちらの方へ越してきたのであった。何しろサッカーに関して言えば、横浜より藤沢の方が断然進んでいる。何故なら、横浜はどの区を見ても一般人が満足して競技できる公的なグラウンドをほ

とんど持たず、まして泉区にはサッカーを普及発展させていこうとする組織すらなかった。

「組織が先か、グラウンドが先か?」

かつてより、鶏と卵のへ理屈に右往左往してきた経緯はあったが、選挙前、特にサッカー愛好家達だけの前では声荒げに一席ぶつた関係上、泉区サッカー連盟を立ち上げること、公的なサッカーグラウンドを整備することは至上命題。片っ端から声をかけ、区の広報にも掲載をし、組織構成のメンバー固め、約一年間の準備を経て、ようやく平成七年十二月十九日に設立総会をみるに至った。記念講演はなり行き上、自民党の釜本邦茂・参議院議員(これはあまり好評ではなかった)、子供達は彼のサッカー歴を知らないの(ある)に來援願う。とりあえずめでたし、めでたし……。

無論、自分の果たした役割は万分の一程度だが、それ以来、当サッカー連盟は、幼児の部、小学生の部、中学生の部、一般の部、審判部、広報部、渉外部と七つの部会制を敷いて、数多くの冠大会やリーグ戦を設けて活発に活動を行っている。あとはグラウンド整備ということなれど、

行政はカネがない、土地が高いの枕詞は一種の口グセ。ならば知恵を出そうということで、やっとこの十月に手始めにゴミ埋立て地にサッカー専用グラウンドが完成し、さらに、区内市民公園に一つ(平成十五年完成予定)、境川沿い遊水池にも一つ(平成十七年?月頃)が中期的な

スパンで整備されることになろう。じつと我慢の子だ。

しかし、大切なことが残されていた。本年六月、区内の某中学校が、サッカー連盟にコーチ依頼をしてきたのである。今や中学、高校における指導者の絶対的不足という現状をどうすべきか?探せどなかなか見当たらず、こうなったら人身御供でもなんでもなつてやれよということ、夏以降、中学校にセッセと通うこととなる。満足な教え方と時間が取れぬが、高校時代に基礎から中先生や先輩に習ったことを壊れた蓄音機のように、くどく言っている。サッカーは頭でやれ、トラップは全ての基本、どんな優れたドリブルでも二人のパスには到底及ばない。つてね、なんか偉そ。

湘南クラブ

活動報告

71回 歌野 寧

3シーズン目も終わりを迎えようとしている、我ら湘南クラブですが、今シーズンは過去2シーズンよりも、かなりお寒いシーズンとなってしまいました。リーグは1試合を残し、1部昇格への可能性は残っていますが、自力での昇格はなくなり、トーナメントの大会もパツとし

ませんでした。協会サイドとのめんどもあつたりで、スムーズさを欠いたシーズンと言えらうか。得点力不足はいつも昔も変わらないのですが、磐石であつたはずの守備にまで最近足が加わらほら。節制を欠く生活に運動不足が加われば、それも当然のことなのですが、そんな湘南クラブですが、来季からは就職組も増えてくるため、転換期と言えるでしょうか。いままで人数不足に悩まされることはありませんが、来季にはそういった悩みもできそうです。下の年代から、新しい血を導入することも現在検討中です。

不安8割、期待2割の来シーズンですが、責任者の私としては、何とかチーム全員が同じ向きのベクトルを持てるようにうまくやっていきたいと思っています。

今年度を振りかえつて

監督 清水 好郎

湘南高校を指導することになって三年目、県代表を狙うことのできるチーム力が備わつたと思うようになった今年度であつたが。

年明けの新人戦はベスト16に進出したが、自分達の力を出し切れず、金井高校

に〇対二で敗退。(金井高校準優勝、桐光学園優勝)

二、三月で体力面を強化し、春の遠征ではチームバランスが良くなり関東予選の手応えを感じた。いよいよ予選。毎試合雨の中でのゲーム、粘り強く勝ち上がり代表決定戦へ。予選中初めて快晴、グランドは芝生、相手は法政二高である。技術的に戦術的に湘南の方が上であるのに、選手はナーバスになりいつもと違う。私の積極的に攻撃しなさいという指示も「何か」を感じない。得意のセットプレーも「気」を感じられない。何となく攻めて時間を過ごしてしまつた。つまらないPKをとられて万事休す。

五月の総体予選まで約一ヶ月でメンバーの入替えも考えたが、疲労と故障者を考えるとテストゲームが思う様に出来ず不安を残し総体予選は光陵に二対二で敗退してしまつた。

三年生が6人残り、最後の選手権一次予選に向けてメンバーを入替え、システムを変え、じっくり強化して一次予選を突破。二次予選に向けて、合宿・定期試験・体育祭と学校行事の多い中、二度目の経験であるが、コンディションの維持が大変むずかしいと思つた。

二次予選は9月19日(日)。9月の下旬にしては異常な暑さの中、対日大戦は前半二対〇とリードしながら、前半終了間際に一点失点してしまい、後半終了間際に勝ち越し点を奪われ、三対二で逆転負け。暑さ対策がまったく出来ず、気象条件を

考慮すべきだつたと大反省。

勝てるチームにはなつたと思うが、三年間を振り返つてみて、まだまだ私の指導力のなさを痛感した。

今後の課題としては、技術的に蹴る技術はある程度県のトップレベルになつたと思うが、ボールを止めて、回りを見て、相手のウラを取る感覚、パススピードを上げること。

身体的には、個人個人の成長の度合いが違うので大変むずかしく、今年度中でもレギュラーが故障ではずれることも多く、フィジカルチェックをしっかりとすることが課題である。それに伴い、トレーニングを変える必要があるのも、まだまだ私自身勉強しなければならぬと思う。(トレーナーの活用を考慮しています)

戦術的にはあまり問題はないのだが、生徒の気質が学年セクト主義が強く、それを壊すのに一苦労しています。(遊び心がない)

その他、学校行事との兼ね合いを考慮することがむずかしく、大きな課題に思う。また、県外に出て行くことが現在三月だけであるため、試合数が少なく、ある程度集中して試合をすることを多くしたい。(問題が多いが)

最後に、各大会に多くのOB方々のご声援をいただき大変感謝しております。新チームは、前チームのレギュラーが七人残っており、今年より増し、来年度もよろしく御支援・御声援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

今年を振りかえつて

現役 渡辺 泰裕

今年のチームは一昨年・昨年と比べて、技術のある選手が少なく、主将友松とDF松本の2本柱がチームを支え、あとの試合に出場する10人ないし11は、清水先生から与えられた自分の役割をいかに果たすことができるかということがテーマだつたと思います。

それまで、地区大会予選リーグから優勝、自分たちのサッカーが出来ないまま敗れた新人戦、あと一歩で代表権獲得というところまで迫りながらも、勝負強さを欠いた関東大会予選、そして初戦を突破することの難しさを改めて教えられたインターハイ、これらを経験し、残るは選手権制覇のみと目標を掲げた6月、高校最後の大会へのスタートをきりました。選手権大会にのぞんだ3年生は6人と少なかったのですが、優勝という確固たる決意を胸に刻み、残ることを決めた選手達だつたと確信しています。

これまでの課題だつた「得点に対する決定力」に重点を置き、7月下旬の1次予選まで、練習に励みました。練習中はみんな声を掛け合つて、プレーに関することは学年に関係なく言い合えるよう

によく話し合い、雰囲気高めめることに努めました。時に、鈴木先生の叱咤激励の言葉が選手の心を奮い立たせ、須藤コーチのアドバイスによって反省点を見いだし、プレーを修正していききました。

とうとう1次予選を迎え、負けたら即引退というプレッシャーの中、3試合とも接戦を何とかものにするのが出来ました。ほっとしたのもつかの間、友松を除いてみんな経験したことのない、未知の2次予選に向けて、合宿が始まりました。そして、あつと言う間に夏休みが過ぎました。新チーム結成から1年、この頃やっと「チームになつてきたな。」という実感が湧いてきました。

2次予選、日大日吉は関東大会で対戦し、相手はすごい気合いで臨んでくることは分かっていましたが、勝てるという自信がありました。試合は前半にDF松本らの活躍で、2点を先取しましたが、緊張のためか浮足立った選手達の動きは鈍く、その後は後手後手にまわってしまい、失点を重ね、敗れました。2失点が前後半残り5分で取られ、40分ゲームの恐ろしさを遅まきながら痛感する結果になりました。

こうして、僕たち3年生は、高校生活のすべてであったサッカーを残念な形で終えることになりました。清水先生の熱心な指導のもと、「勝つ」ことにこだわって続けてきたサッカーは、神奈川県頂点をも掴み取ることを確認し、ただただそれだけをこの手に出来なかったことを

唯一の心残りとするばかりです。やっとチームになり始めたこのチームで、もっとサッカーがしたかったという気持ちは否めませんが、常にスタメンの6人以上が1、2年生であつたので、たくさんの苦い経験を積んだ次の代のチームが、神奈川県制覇あるいはそれ以上の結果を残してくれることを期待します。

この3年間の経験はこれからの僕たちの人生の大きな糧となり、様々な場面で影響を与えることと思います。この湘南というチームでサッカーができたことを、素晴らしい仲間たちに、清水先生、鈴木先生、須藤コーチ、サッカー部を支えて下さったOBの諸先輩方に、心から感謝したいと思います。

本当にありがとうございます。

【関東予選】

1 回戦	湘南	3	(30)	0	県相模原
2 回戦	湘南	1	(01)	1	座間
3 回戦	湘南	2	(11)	0	七里が浜
準々決勝	湘南	2	(11)	0	日大
準決勝	湘南	0	(00)	1	法政二

【高校総体予選】

5 回戦	湘南	1	(10)	2	光陵
------	----	---	------	---	----

【選手権予選】

2 回戦	湘南	1	(10)	0	川和
3 回戦	湘南	2	(11)	0	横浜日野
4 回戦	湘南	1	(10)	0	小田原
二次1回戦	湘南	2	(02)	3	日大

【新人戦地区大会】

決定戦	湘南	1	(01)	1	北陵
-----	----	---	------	---	----

〈平成11年度会計報告〉

〈収 入〉	
会費・寄付	1,405,000
繰り越し	60
利子	239
計	1,405,299
〈支 出〉	
現役寄付	300,000
コンテナ送料	94,500
コンテナ基礎工事	150,000
現役試合参加費	16,000
蹴球祭	122,700
遠征補助 (OB)	100,000
筑波大付属戦補助	30,000
夏合宿OB会	31,400
夏合宿補助 (OB)	30,000
指導者支援金	130,000
通信・事務費	159,890
印刷費	219,000
慶弔費	10,000
通帳残	11,809
計	1,405,299

〈平成12年度予算案〉

〈収 入〉	
150名 (社会人130名、学生20名)	
$130 \times 10,000 \div 20 \times 5,000 =$	1,400,000
利子	11,809
計	1,411,809
〈支 出〉	
現役寄付、合宿遠征補助	500,000
指導者支援金	130,000
印刷費	250,000
通信・事務費	150,000
蹴球祭・夏合宿	200,000
付属定期戦補助	40,000
雑費	30,000
予備費	111,809
計	1,411,809

お願い

つぎの方の住所が不明となっており、会報等が返送されてしまいます。ご存じの方がいらっしゃいましたら下記の事務局武藤までご連絡下さい。ご協力をお願いします。

〒251-0037 藤沢市鵠沼海岸5-9-15

☎0466-34-9329

武藤 健一

〈不明者リスト〉

8回 駒崎利夫	11回 金井英孝	14回 土屋信彦	15回 伊吹昭男
16回 藤井 徹	17回 太田重郎	17回 小野 勝	18回 千種 鍾
18回 松本良二	19回 古城正俊	22回 富沢昭夫	27回 加藤道八
27回 出口孝治	27回 木原 恵	28回 武田彰夫	28回 土田武信
29回 本郷美宏	30回 岡田清治	34回 畠山昭彦	35回 横山義彦
37回 荻野 晃	38回 団井忠興	38回 山崎正雄	39回 飯田志農夫
39回 岡本行夫	39回 新田 格	40回 君島正彦	40回 隅山協多
40回 滝本 茂	40回 奥村竜昭	40回 本多空次郎	40回 森信次郎
41回 内海 論	43回 田中 力	44回 小安則之	44回 本城勇介
44回 高石順成	44回 橋本廣和	44回 見上 寛	46回 石井邦和
46回 隅山研二	46回 中山 亮	46回 山口廉隆	47回 岩村紀男
47回 大野康一郎	47回 白石千石	47回 野村俊夫	47回 村井敏素
50回 鈴木慎一郎	50回 田中和彦	50回 長谷川伸二	50回 広江昭彦
50回 吉田慎二	50回 磯尾典男	51回 伊藤冬樹	51回 瑞山真一
51回 清原信男	51回 盛岡邦夫	52回 安達 弦	52回 関 啓輔
52回 中井 健	52回 皆木明彦	52回 盛岡敏夫	53回 渡辺秀通
54回 有馬純夫	54回 栗田 洋	54回 堀 真	55回 香取素和
55回 香山秀一郎	55回 土橋明彦	55回 二瓶 誠	55回 山本吉一郎
56回 竹内昌義	56回 西田英司	58回 海老沼修	58回 馬場克拓
58回 高木英典	59回 石川啓一	59回 小幡公裕	60回 永原 央
60回 安田百合	60回 本田正人	61回 郷治知道	61回 前田 浩
62回 赤井真一	62回 南保泰雄	63回 小野 岳	63回 明石英人
63回 土屋幸司	63回 渡辺良博	64回 望山 洋	66回 岩堀禎廣
67回 鉄井亮一	67回 津上康正	67回 星野美紀	68回 伊沢武男
68回 加藤雅隆	69回 元栄太一郎	70回 家田敦子	70回 福田一郎
70回 星 洋輔	71回 萩原大明	73回 岡部貴史	73回 米山俊直
卒年不明 高橋道彦	卒年不明 高橋 純	卒年不明 細田光昭	
卒年不明 石原隆一郎	卒年不明 磯崎 弘	卒年不明 小塚真一	
卒年不明 斉藤 隆			(敬称略)

12年度会費納入の件

11年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしく願っています。

会費については、11年度総会で左記のとおりとなりました。社会人の方は、できましたら二口以上の寄付をお願いいたします。

・社会人 一口 五、〇〇〇円
・学生 一口 三、〇〇〇円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、左記銀行口座でも受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金

口座番号 019166

湘南高校サッカー部OB会

武藤俊一 ☎0466(34)9329

ご連絡

小田原高校サッカー部及び同校OB会より、創部七十周年の記念試合への招待状を、湘南サッカー部及びOB会へいただきました。

3月19日(日)に小田原高校で行われるとのこと。詳細及び参加方法は総会にて、ご相談させていただく予定です。

蹴球祭・総会のご案内

日時／1月10日(月・祝) 11:30～

場所／湘南高校(セミナーハウス・グラウンド)

〈予定〉

11:30～12:15	総会	(セミナーハウス)
12:30～14:15	40～60代OB戦	(グラウンド)
14:15～14:30	現役交歓式	(//)
14:30～16:30	若手OB、現役戦	(//)

〈コートは2面取ります。お弁当を総会終了時にお配りする予定です。〉

※当日、現役の県新人戦が湘南台高校で行われます。

湘南は9:30～、対湘南台高校です。

ご都合よろしければ、総会の前に応援をよろしく願いたします。

(湘南台高校＝小田急湘南台駅西口より徒歩7分。

引地川沿、いすゞ自動車手前)